

学びの風便り

リーディングスクール通信 21 R6.6.3

発行：松本市教育委員会 教育研修センター



特集！学びの改革のあゆみ 鎌田中学校・明善小学校



鎌田中学校 総合的な学習の時間「KMDタイム」がスタートしました！

リーディングスクールとして 2 年目を迎える鎌田中学校は、探究的な学びを一層充実させていきます。総合的な学習の時間「KMD タイム」では、「地域に生きる私」という視点から「私たちはこの地域のために何ができるか」という地域貢献に根ざした問いを出発点として学びを深めていきます。各生徒、各学級が深めたいテーマを設定し、興味が赴くままに湧いてきた疑問や直面する課題の解決に向けて具体的な行動を起こしていきます。自ずとこの授業は、生徒が学びの主体者となります。椅子に座って、黒板に書かれた文字をノートテイクして済む授業ではありません。関連資料を調べ、学級内外の友とコミュニケーションをとりディスカッションして、自分とは異なる視点の意見を吸収します。学びの展開によっては、アンケート、インタビュー、実地調査、実験など、体験に基づく多様な学びへと展開していきます。KMD タイムを中核とする学びが、他教科の知識や技能と結びつき、他教科の学びの質の向上に繋がる効果も期待されます。以下では、過日行われた KMD タイムでの生徒の学びの様子をお伝えします。

KMDタイムのオリエンテーション ～多岐に渡る生徒の興味関心！～

「KMDタイムに教科書はありません。何をするかは決まっていない。これがKMDタイムの面白いところです！」。オリエンテーションを担当した先生は、教科学習だけでは得られないKMDタイムの学びの魅力をこう端的に表現します。体育館に集合した全校生徒は、KMDタイムが「どのような学びの時間」であるのかについて共通認識をもった後、各学年に分かれて、地域の課題を共有します。

1 年生では、鎌田地区を含めた松本市の公共交通に目を向ける生徒がいます。



地域の課題を共有している様子

… （鎌田地区は）公共の交通が不便だと思う。狭い道も多い。

道路も渋滞している。すぐに利用できる電車もない。道を広げ道路を地下に作るアイデアもある。でも、こういった開発は、自然がなくなることにも繋がる。環境のこともあるし…。

2 年生では、自然の保全と農業の存続に目を向ける生徒がいます。

… 登下校中に考えることがある。最近の鎌田は家やアパートが多くなってきた。今の時期、ちょっと前まではカエルの声が聞こえていたのに、今は静か。家が建つことで田んぼも畑も減っている。このことは農家が減っていることの裏返し。高齢化が関係しているだろうか。農家のよさってどう伝えたらいいかな。

生徒に浮かび上がる問題意識や興味関心は、今後の取り組みとともにどのような学びの輪郭を帯びていくのか。これからの KMD タイムの進捗が楽しみです。

明善小学校 先生自身が自ら問いを持ち、試行錯誤を重ねる１年に！



明善小学校では、昨年度までの２年間の幼保小接続を意識した幼年教育研究の実践を通して、子どもたちの「やってみたい!!」という思いを大切にとらえ、様々な活動に取り組んできました。活動の傍らにはいつも、自らの思いや願いを綴った「学びノート」がありました。「学びノート」とは、明善小学校の近隣保育園の年長児が自らの思いや感じたことを表現する「あそびノート」を引き継ぎ、明善小の１，２年生が綴っているノートです。この「学びノート」を通して、先生たちは子どもたちのありのままの姿をとらえ、関わり方に生かしてきました。１，２年生の生活科を中心に、自分たちの「やってみたい!!」を具現化してきた子どもたちに、明善小の先生方は、自分の思いや疑問などをさらに自由に表出し、主体的に学ぶ子どもに育ててほしいと願っています。そして、そのような低学年期の学びを、生活科だけでなく他の教科や他学年の学びにもつなげていきたいと考えています。

「入門期の学びの充実」研修

低学年の実践から学ぶ

５月下旬に、「子どもたちの『やりたい!!』を実現するわくわくする生活科」と題し、明善小低学年の実践から学ぶ、教育研修センターの研修を行いました。参加者は２年生の授業参観をした後、授業者の中島先生から昨年度の実践の様子をうかがいました。中島先生は、「いつでも子どもたちが主役。子どもたちが自分で考えている。自分は子どもに動かされている。そのことが幸せ。」と話されます。この研修に明善小から先生方が全員参加。一般の参加者とともに、ワークショップで「学びノート」に参観の感想や思いをかくことを体験しました。記述後、参観した子どもの姿を生き生きと交流した先生方。「学びノート」の力、子どもの「～したい」を尊重することの大切さへの気づきが語られました。



思いを出し合う場面



教室の前庭で思い思いに遊ぶ子どもたち

子どもの学びをどう見るか

先生方が子どもの学びの姿を見る視点は一人ひとり異なります。自身がどう見たかを言語化し、共有することを通して、各自の子ども観を深めていくことができます。研究主任は、今年度「校内でのお互いの授業参観、事例検討、校内研修、県外校の視察等を通して私たち教師の子ども観の問い直しを図りたい。」と語ります。

このように「主体的に学び合う子ども」をテーマに、学校全体で子ども観・学び観を問い直し、子どもを主体とする授業の具現を目指し、明善小の挑戦は続きます。

お知らせ

★各校の取組み状況を随時松本市教育委員会のホームページでお知らせしています。
(毎週更新) 右のQRコードからぜひご覧ください。

